

FFG

ベストリージョナルバンク誌

2020

あなたのいちばんに。編

特集

私らしい 「資産づくり」って 何だろう？



FREE

¥0

ご自由にお持ち帰りください。



「ザ・ベストリージョナルバンク」を
目指して
トップメッセージ

インターネットバンキングを、
さらに“安心”“便利”にお使い
いただけるようになりました

2019年度の
業績ハイライト

FFGの社会的責任
CSRレポート

健やかな毎日への願いをこめて

あなたのいちばんに。



リニューアルした福岡銀行本店営業部1Fロビー。快適で心地よい店舗づくりを目指します。

Contents

- 2 グループ銀行プロフィール、
FFGのネットワーク
- 3 トップメッセージ
「ザ・ベストリージョナルバンク」を目指して
- 5 特集 私らしい「資産づくり」って何だろう？
- 7 FFG TOPICS
- 9 FFGの商品&サービス
- 11 CSRレポート 2020
- 13 ふくおかフィナンシャルグループ
経営戦略
- 14 業績ハイライト

ふくおかフィナンシャルグループは、
まちや人が輝く場面を
ともに創り、寄り添っていくで、

地域とともに、お客さまとともに
成長していく存在となることを
目指しています。

いちばん近くで

いちばん頼れる

いちばん先に行く

それが、私たちからお客さまへの約束です。

PROFILE

グループ銀行 プロフィール

2020年3月末日現在

ふくおかフィナンシャルグループは
九州を基盤とした
広域展開型地域金融グループです。



設 立 日 平成19年4月2日
本 社 所 在 地 福岡市中央区大手門一丁目8番3号
資 本 金 1,247億円
従 業 員 数 8,030人
電 話 (代 表) 092-723-2500
U R L <https://www.fukuoka-fg.com/>

連結子会社

27社

(うち福岡銀行連結13社・
十八銀行連結6社)

格付情報

A+ R&I
発行体格付

A JCR
長期優先
債務格付



①昭和20年3月31日
②福岡市中央区天神二丁目13番1号
③823億円
④3,570人
⑤092-723-2131
⑥<https://www.fukuokabank.co.jp/>

明治10年、第十七国立銀行として創業。
九州全域を営業エリアとする。

①昭和4年1月19日
②熊本市中央区水前寺六丁目29番20号
③338億円
④858人
⑤096-385-1111
⑥<https://www.kumamotobank.co.jp/>

昭和4年創業。
熊本県内を主要営業エリアとする。

①昭和14年9月1日
②長崎県佐世保市島瀬町10番12号
③368億円
④1,148人
⑤0956-24-5111
⑥<https://www.shinwabank.co.jp/>

明治12年、第九十九国立銀行として創業。
長崎県内を主要営業エリアとする。

①明治30年7月
②長崎市銅座町1番11号
③244億円
④1,240人
⑤095-824-1818
⑥<https://www.18bank.co.jp/>

明治10年、第十八国立銀行として創業。
長崎県内を主要営業エリアとする。

貸出金	資金量	格付
10.8 兆円	11.1 兆円	AA- ^{*1} A+ ^{*2} A3 ^{*3}

貸出金	資金量	格付
1.6 兆円	1.4 兆円	A+ ^{*1} A+ ^{*2}

貸出金	資金量	格付
1.7 兆円	2.3 兆円	A+ ^{*1} A+ ^{*2}

貸出金	資金量	格付
2.0 兆円	2.6 兆円	A+ ^{*1} A+ ^{*2}

*1 R&I 発行体格付 *2 JCR 長期優先債務格付 *3 Moody's 長期預金格付(2018年6月6日時点)

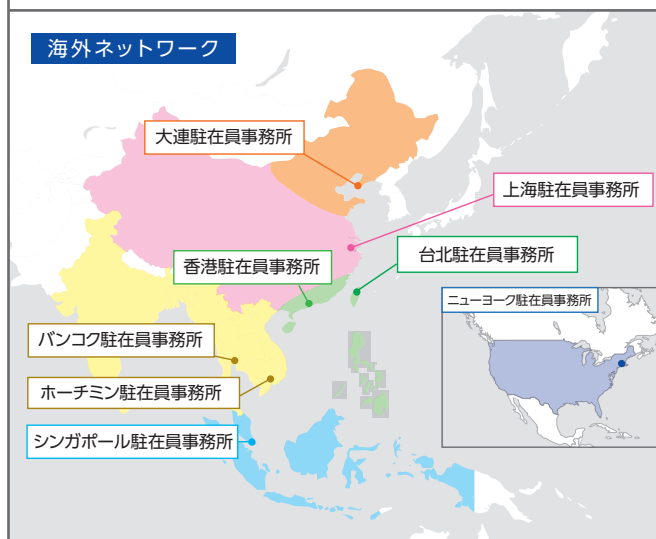
①設立日 ②本店所在地 ③資本金 ④従業員数 ⑤電話(代表) ⑥URL

NETWORK

FFGのネットワーク

2020年5月末日現在

海外ネットワーク



合計

本支店: 414店舗
出張所: 14ヶ所
ATM: 2,506台

福岡
本支店: 165店舗
出張所: 4ヶ所
ATM: 1,258台

大分
支店: 3店舗
ATM: 10台

長崎
本支店: 158店舗
出張所: 9ヶ所
ATM: 943台

佐賀
支店: 10店舗
ATM: 29台

熊本
本支店: 64店舗
出張所: 1ヶ所
ATM: 245台

九州外
支店: 9店舗
ATM: 12台

鹿児島
支店: 4店舗
ATM: 7台

宮崎
支店: 1店舗
ATM: 2台

※福岡銀行／福岡県の支店には振込専用支店1、インターネット専用支店1を含む。
※親和銀行／長崎県の支店には振込専用支店1を含む。
※ATMには共同ATMを含む。

「ザ・ベスト リージョナルバンク」を 目指して

「新型コロナウイルスに迅速に対応しながら、
成長戦略を着実に」

ふくおかフィナンシャルグループ
取締役会長兼社長
柴戸 隆成



皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年度の事業概要

2019年度の国内経済は、輸出・生産面に弱さが見られたものの、良好な雇用・所得環境を背景とした個人消費の持ち直しに支えられ、緩やかな回復が続いていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動が制限された結果、年度末にかけて下押し圧力が強まり、厳しい状況となりました。

私どもの地盤である九州においても、好調な設備投資を背景に、緩やかな景気拡大が続いていましたが、年度後半は日韓関係の悪化によるインバウンド需要の減少のほか、消費増税後の個人消費にも弱さが見られ、さらには新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、輸出や生産、個人消費を中心に弱い動きとなりました。

金利面では、マイナス金利の深掘りを織り込む動きも見られましたが、年度末にかけての株価下落をきっかけに、益出しを目的とした債券売却の動きなどから、10年物国債の利回りは0%近辺まで上昇しました。

このような金融経済環境のもと、当社グループの2019年度の業績は、貸出金利回りの低下による利息減収や資産運用商品の販売手数料の減少がありながらも、貸出金残高の積み上げや法人関連手数料などの増強に取り組んだ結果、本業の収益力を示すコア業務純益（4行合算）は789億円とな

「新型」コロナウイルスへの対応」を加え、各種戦略・施策を展開してまいります。

また、FFG連結当期純利益は、十八銀行との経営統合に伴う負ののれん発生益1,174億円を計上したことなどにより、前年比で590億円増加の1,106億円となりました。

業容面では、2020年3月末の4行合算の預金残高が17.5兆円、貸出金残高が16.2兆円と、いずれも増加しており、業容は順調に拡大しております。

FFGの成長戦略

2020年度の日本経済は、新型コロナウイルスの影響による個人消費の落ち込みやインバウンド需要の低迷、企業の収益悪化を受けた設備投資の減少などが下押し要因となり、先行き不透明な状況が続くことが見込まれます。

他方、地域金融機関を取り巻く環境は、人口減少・少子高齢化の進行や低金利環境の長期化といった従前からの課題に加え、デジタル技術の急速な進展によってお客さまの行動や社会環境の変化が進んでおります。

こうした環境の変化へ柔軟に対応し、「持続的に高い競争力・成長力」を実現するため、成長戦略の大きな柱として「構造改革によるトップラインの引き上げ」と「十八銀行との経営統合によるシナジーの最大化」の2つを掲げております。

そのなかでも、2020年度は特に「業務プロセスの再構築」、「新しい投信ビジネスの確立」、「みんなの銀行」、「親和十八銀行の合併」を最重要戦略と位置づけ、これに足元の最重要課題である

I 業務プロセス再構築

生産性の飛躍的な向上を目的に、営業店を中心とした業務プロセスの抜本的な見直しに取り組んでおり、2020年度は、その中核の一つと位置づける「タブレット導入」を本格的に進めてまいります。

預金や為替取引を行う「ロビータブレット」と新規口座開設や住所変更などの諸届を行う「ローカウインタブレット」を全店に設置し、紙の伝票を電子化することで、銀行の店頭業務を大きく見直し、生産性の向上を加速してまいります。

II 新しい投信ビジネスの確立

「お客さまの資産形成」と「安定収益の確保」を同時に実現するため、昨年度から投資信託の残高増強に向けたビジネスモデルへの転換を進めています。

2020年度は、新たに導入したサービス「投信のパレット」を軸に、長期の資産形成を前提としたポートフォリオの提案や、国内にあるほぼ全ての投資信託を定量データにより客観的に評価し、公平・中立な投資信託選びをサポートするなど、真にお客さまの資産形成に貢献するサービスを展開してまいります。

III みんなの銀行

2020年度中の開業に向けて、現在、ビジネスモデルの構築を進めて

います。

データを駆使してお客さまをより深く理解し、生活に溶け込んだ金融サービスを提供していくことで、全国のデジタルネイティブ世代を中心に事業基盤を構築してまいります。併せて、決済や与信供与などのニーズがある事業会社に対して金融機能を提供する「Bas (Banking as a Service) 型ビジネス」を進めていくことで、収益の拡大を図ってまいります。

IV 親和・十八銀行の合併（十八親和銀行の誕生）

2020年10月に親和銀行と十八銀行の合併、2021年1月に事務システム統合を予定しております。

足元では、合併に向けた営業体制の統や本部組織の一部集約などに取り組んでおり、合併後の2021年5月からは、両行で重複する店舗の統合を順次進めてまいります。

システム統合によるシステムコストの削減、店舗統合や本部組織の集約による営業人員の捻出により、早期にシナジー効果を実現し、長崎県経済の発展に貢献する「お客さま満足度N.O.1」銀行を目指してまいります。

V 新型コロナウイルスへの対応

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ一連の措置が経済活動の停滞に繋がり、業種・規模にかかわらず、多くの企業に影響が及んでいるため、お取引先に対して、予防的な資金調達を含め、「迅速かつ十分な資金供給」と「金融の

円滑化」に努めてまいります。

他方、新型コロナウイルスの感染拡大が進むなかにおいても、我々地域金融機関は地域の金融インフラとして、資金の決済やお取引先の資金繰り支援などの金融サービスを維持していかねければなりません。時差出勤や在宅勤務に加え、本部では融資・事務・システムなど業務継続に不可欠な部署を他の部署と分離して業務にあたるなど、感染リスクの低減に努めております。

これまで経験したことがない事態です。グループの総力を挙げて迅速に対応してまいります。

2020年度 通期の業績見通し

2020年度通期の業績予想は、コア業務純益（4行合算）786億円、FFG連結当期純利益400億円を計画しています。

なお、当社では業績連動型の配当テーブルを設置しておりますが、2020年度における配当につきましては、十八銀行との経営統合による「過性の要因があるため、当該配当テーブルにかかわらず、前年度配当額と同水準の年間85円（1株あたり）をお支払する予定です。

今後とも、株主、お取引先をはじめ、ステークホルダーの皆さまのご期待にお応えすべく、役員・丸となつて業務に邁進してまいりますので、なお層のご支援、ご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

「資産づくり」って何だろう？

資産運用とは？

資産を管理・運用して、効率的に殖やしていく資産運用。その方法は、大きく2つに分かれます。1つは、「貯蓄」。普通預金、定期預金、積み立て預金など、広く一般的に利用されている金融サービスで、殖やすことより、貯めることが目的です。もう1つは、「投資」。主に株式、債券、投資信託など、貯めるよりも殖やすことに重点を置く運用です。今、関心を集めているのが、この「投資」です。

資産運用

投資

殖やす
(運用成果は
予測できない)

株式
債券
投資信託

貯蓄

貯める
(元本保証、
固定金利型)

普通預金
定期預金
積立預金

置いておけば殖える“時代は終わった”

投資が関心を集める背景には、従来の「貯蓄」の在り方の変化があります。1990年代半ばまでは、国債や預金など、固定金利商品の利回りは5%前後でしたので、定期預金にお金を置いておくだけで、十数年後には2倍に殖えていた時代でした。これによって、日本人は勤勉に働いてお金をコツコツと預貯金に貯めておく人が大半を占めるようになりました。ところが現代では、固定金利商品の利回りはほぼゼロとなり、2倍に殖えるまでには数千年、

から数万年がかかってしまいます。つまり、資産運用の目的である「殖やす」を、貯蓄によって叶えることが難しくなりました。

若く健康な働き世代にとつて家庭や育児・教育に費やす資金は未知数ですし、怪我や病気、災害など思いがけない出来事によって計画通りの貯蓄ができない可能性もあります。また、老後の年金も将来的には減額や支給年齢の引き上げが予想されています。そこで、自ら資産形成をして備えることに心が集まり、貯めるだけでなく、投資によって「資産を成長させていく」という価値観が少しずつ浸透し始めていると考えられます。

自分らしい資産づくりについて考えてみましょう

とはいえ、日本ではまだ投資の文化が根付いていないといえませんが、世界的に見ると、家計金融資産のうち、アメリカでは46.3%、欧州では27.6%が投資信託・株式等で構成されているのに対し、日本では13.9%に留まっています。(2019年日本銀行資料より)

「投資のタイミングを見極めて、売ったり買ったりする自信がない」「値動き次第では損をするのではないか」という不安が、投資を経験したことがない人が踏み出せずにいる主な理由といわれています。

投資にはさまざまな種類や方法があります。商品の性質は大きく3つに分けて、元本や利子の支払いが確実な「安定性」、



資産づくりに「てあつさ」を。

投信のパレット

安心して、長期的な資産づくりに取り組んでいただくために

当社グループでは、真にお客さまの資産形成に貢献し、お客さまの最善の利益を追求していくことを実現するため、2020年2月に福岡銀行で「投信のパレット」サービスをスタートさせました。

本サービスでは、お客さまに安心して、長期の資産づくりへ取り組んでいただけるよう、当社グループが独自に開発した投資信託の分析システムを活用し、投信専門担当者がお客さまお一人おひとりに合った手厚いサポートをさせていただきます。私どもが自信を持ってお届けするこの新たなサービスを、ぜひ一度お試しください。



1. 比較することで違いが分かる

国内で販売される4,800本の投資信託を公平・中立に評価・分析します。お客さまが他金融機関で購入された投資信託も分析します。

ファンドごとに、運用の成果だけでなく、「運用の安定性」「分配金の魅力」「コスト」などについて5段階評価を行います！

5段階評価

投資信託	安定性	分配金	コスト	運用成果
① 日本株	5.0	5.0	5.0	5.0
② 米国株	4.0	5.0	4.0	5.0
③ 欧州株	4.0	5.0	3.0	4.0
④ 日本債	5.0	5.0	5.0	5.0
⑤ 米国債	5.0	5.0	5.0	5.0
⑥ 日本株	4.0	5.0	3.0	4.0
⑦ 米国株	4.0	5.0	3.0	4.0
⑧ 欧州株	4.0	5.0	3.0	4.0
⑨ 日本債	5.0	5.0	5.0	5.0
⑩ 米国債	5.0	5.0	5.0	5.0

比較チャート



ファンドの運用実績の違いがグラフで一目瞭然！確認できます。

メディアや広告で目にする「資産運用」という言葉。一見難しそうですが、日々の生活や楽しみ、将来への備えのためにお金を管理して生きる私たちにとって、とても身近なものです。お金について考えることは、これからの生き方について考えること。今回は、資産づくりの1つの方法である“投資”についてお伝えします。

私らしい

投資は社会貢献？

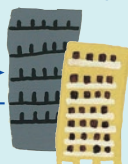
投資と聞くと、ギャンブルのような世界をイメージする人もいるかもしれませんが、投資は、企業の株式や国の債券を購入して、それぞれの成長の実績に応じて利益を受け取る仕組みです。国が公共事業を進めてよりよいまちづくりに取り組んだり、企業が将来を見据えて事業を拡大するためには資金の安定的な調達が必要です。投資はその持続的成長を支える対価として利益の一部を受け取るものであり、投資の裏側には、国や企業を応援する「社会貢献」という意義もあるのです。

投資する人



- 資産が増える
- より暮らしやすい環境、質の高い商品サービスが手に入る

国や企業



事業拡大・持続的成長

投資の3パターン

安定性

元本や利子の支払いが確実

収益性

大きな収益が期待できる

流動性

必要な時にすぐ解約できる

大きな収益が期待できる「収益性」、必要ときにすぐ換金できる「流動性」があります。この言葉だけでも、自分の考え方に

合う投資タイプが見えてくるのではないのでしょうか。
お金と密接に関わる私たちの暮らしにおいて、資産づくりと向き合うことは、人生を豊かに過ごす工夫に繋がります。投資はその選択肢のひとつです。「なんとなくリスクが高そう」という漠然とした不安のために、その可能性を狭める必要はありません。まずは資産づくりにおける自分なりの考え方を見つけて、それに合う方法やサービスについて知ることにより、自分らしい人生をつくっていきましょう。

～「投信のパレット」だからできること～

3. 専門家にずっと相談できる

専門のコンサルタントがFace to faceを基本としたスタイルで、分かりやすい資料を用いてご相談にお応えします。

Coming Soon!

この秋、導入予定「在宅オンラインサービス」

お客様のパソコンやスマートフォンを使って、専門担当者にオンラインでご相談いただけます。



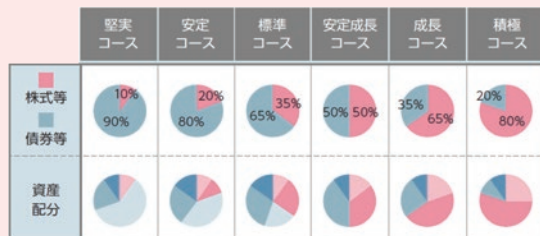
お客様のご自宅



専門担当者

2. 多彩な組み合わせから選べる

さまざまな地域・資産へ投資する分散投資で、大幅な値動きを抑える効果を発揮します。彩り豊かな組み合わせによる資産運用プランをご提案し、お客さまに合った投資信託をご案内します。



「投信のパレット」サービスの詳細は、最寄りの福岡銀行窓口、または下記コールセンター・ホームページでご確認ください。

福岡銀行

投信のパレットコールセンター

0120-44-8010

よきよか

パレット

受付時間:平日9:30～17:30
(但し銀行休業日は除きます)



【ご留意事項】

※「投資信託」は、市場動向等により投資元本を割り込むおそれがあります。

※ご検討にあたっては、「商品パンフレット」「契約締結前交付書面」および「目論見書」等の書面の内容を十分にお読みください。

FFG TOPICS



ふくおかフィナンシャルグループの最近のトピックをご紹介します

デジタル関連の取り組み

「Wallet+（ウォレットプラス）」が100万ダウンロードを達成

i Bankマーケティング株式会社は運営する、お客さまが夢の実現に向けてお金と上手に付き合えるスマートフォン専用アプリ「Wallet+」が、100万ダウンロードを突破しました。2016年のサービス開始以降、これまでに熊本銀行、親和銀行、沖縄銀行、広島銀行、山梨中央銀行、南都銀行、十六銀行の口座保有者向けにサービスを展開しており、2021年冬には佐賀銀行への本サービス導入を予定しています。

金融イノベーションのアワードで大賞を受賞

FFGは、金融イノベーションのアワード「Japan Financial Innovation Award 2020※」において、大賞を受賞しました。2019年5月より、システム開発子会社のゼロバンク・デザインファクトリー株式会社において次世代バンキングシステムの研究開発を開始するとともに、同年8月よりデジタルネイティブ層をターゲットとした新銀行設立の準備を進めるなかで、その中核を担う勘定系システムの基盤としてGoogle Cloud Platformを採用していることなどにに対し、「地方銀行がまるでフィンテック企業のように最先端のテクノロジーを駆使したチャレンジを行っている」と高く評価いただきました。



※株式会社F-INOLABおよび一般社団法人金融革新同友会F-INNOVATORSが運営する金融イノベーションのアワード。金融分野における情報通信技術を活用した先進的な取り組みを促進し、業界内でのベストプラクティス共有を図ることに加え、企業グループや業種の垣根を越えたオープンイノベーションの更なる拡大を目指すために、今般新設された取り組み。

Bank

ベンチャー支援

FFGでは、地域の課題解決およびベンチャー企業の成長支援を目的に、お取引先を中心とする地場企業と、AIやIoTなどの最新テクノロジーを有するベンチャー企業とのマッチングイベント「X-Tech Match Up」を開催しています。2019年度は、新たに北九州市でも開催するなど規模を拡大しました。ベンチャー企業約60社、地場企業約300社に参加いただき、商談数は計500件を超えるなど、大変盛り上がりしました。



海外ビジネスセミナーの開催

FFGおよびグループ4行は、お取引先の海外ビジネス・サポートの二環として、アジアビジネスで失敗しないための実践的なノウハウと最新情報をお伝えするセミナー・個別相談会を開催しました。5社の専門家が参加企業53社に最新ビジネス環境や知的財産対策、海外子会社の経営、オンライン海外展示会を活用した販路開拓について解説しました。個別相談会では12社から相談があり、大変ご好評をいただきました。



物産展の開催

FFGおよびグループ各社は、地方創生の取り組みの一環として、地方自治体によるイベント開催をサポートしています。

2019年下期には、福岡銀行本店広場を活用し、長崎県対馬市と諫早市の観光PRや地元特産品の販売を行いました。

2日間で来場者が1,000名を超えた「対馬物産展」では、出店した事業者から「地元の魅力をお伝えすることで喜んでいただけてよかった」との声が聞かれたほか、対馬にゆかりのある方も多く来場され、活気あるイベントとなりました。



遺言信託・遺産整理業務の取扱い開始

熊本銀行、親和銀行、十八銀行は、お客さまの円滑な資産承継や相続対策をサポートするため、信託銀行の信託代理店として「遺言信託・遺産整理業務」の取扱いを開始しました。お客さまの相続に関する幅広いニーズにお応えしていくことを目指します。

店舗・ATM情報

当社グループは、快適で心地よい店舗づくりを通じて、「あなたのいちばんに。」を感じていただけるサービスをご提供していきます。

18bank 十八銀行

4/20 滑石支店 移転建て替え



長崎市北部地区の主要な拠点として、セミナーや各種イベントを開催できるスペースを設けています。より利用しやすく、地域の賑わいを創出する店舗づくりを目指します。

店舗内店舗方式の移転

18bank 十八銀行

- 1/14 ●博多支店→福岡支店
(対象店舗) (移転先店舗) ※以下同
- 1/20 ●大野城支店→東福岡支店
- 1/27 ●下関支店→北九州支店



詳しくは、各行ホームページをご確認ください。

熊本銀行

- 12/16 ●京町台支店→崇城大学通支店
(対象店舗) (移転先店舗) ※以下同
- 1/20 ●楠支店→武蔵ヶ丘支店
- 2/17 ●子飼橋支店→浄行寺支店
- 3/16 ●第二空港通支店→健軍支店

～今後の予定～

- 7/27 ●南関支店→玉名支店
- 8/17 ●三角支店→松橋支店
- 9/14 ●松島支店→大矢野支店

FFGのコーポレートコミュニケーション(IR)年間カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
決算発表		●本決算			●第1四半期決算			●中間決算			●第3四半期決算	
株主総会			●									
会社説明会		●						●				
有価証券(四半期)報告書			●		●			●			●	
ディスクロージャー誌			●あなたのいちばんに。編 本誌	●財務データ編			●統合報告書(予定)		●あなたのいちばんに。編 ●財務データ編			
Annual Report									●			



銀行アプリで インターネットバンキングを、 さらに“安心”“便利”に お使いいただけるようになりました

1回限りのパスワードで、
セキュリティを強化！

なぜ今、セキュリティ強化？

金融機関を装った偽のメールやショートメッセージを送り付けてフィッシングサイト（偽のログインサイト）に誘導したり、さらにIDやパスワードなどの情報を入力させて盗み取り、預金が不正に送金される被害が全国的に急増しています。巧妙な手口からお客さまの情報や預金を守るための新たな対策が求められています。

フィッシング詐欺が
急増しています！



出典：警察庁サイバー犯罪対策プロジェクト

ワンタイムパスワードアプリの利用登録／操作方法に関するお問い合わせ先

ワンタイムパスワードアプリ
専用デスク

※受付時間：平日9:00から20:00
（但し、銀行休業日は除きます）

福岡銀行

☎ 0120-750-789

熊本銀行

☎ 0120-112-301

親和銀行

☎ 0120-002-291

2020年6月1日現在

「波佐見陶器市@エンニチ 2020春」を開催しました！



エンニチ en-nichi

あなたと作り手を結ぶ、地域共創型オンラインストア

例年ゴールデンウィーク
シーズンに、たくさんの人で
賑わう波佐見陶器まつり。
2020年は、新型コロナウ
イルス感染症拡大の影響
で開催が延期されたことを
受けて、iBankマーケ
ティング社が運営する地域
共創型オンラインストア「エ
ンニチ」内で、14日間にわたる
オンライン陶器市を開催し
ました。

2020年6月1日現在



無料!

不正送金を防止するための、1回限り有効なパスワード!!

インターネットバンキングでのお振込みや各種変更などのお手続きの際に、お客さまのスマートフォン(銀行アプリ)上に表示される“1回限りの使い捨てパスワード(ワンタイムパスワード)”をご利用いただくことで、簡単に安心してお手続きいただけます。



※ 十八銀行のお客さまは2021年1月からご利用いただけます。

かんたんログイン/ワンタイムパスワードのご利用環境	
iPhone・iPad	iOS 9.0以上で生体認証が設定されたiPhoneまたはiPad
Android端末	Android 5.0以上で画面ロックが設定された端末 ※OSのバージョンや機種により、設定中の画面ロックとは異なる生体認証などの設定が必要となる場合があります。 ※Android 6.0以上の端末は、原則生体認証の設定が必要です。

※端末自体の制約や設定状況等により、ご利用出来ない場合があります。

ワンタイムパスワードアプリの詳細についてはこちら

福岡銀行



熊本銀行



親和銀行



エンニチはこれからも

地域の事業者とお客さまを繋ぐイベントの開催などを通じて、地域経済の活性化に取り組んでいきます!

Visit here!



エンニチのホームページでは、地元九州の生産者の想いやストーリーが詰まった商品を厳選してお届けしています。

期間中のサイト訪問者は16.7万人!

リアルイベントの来場者数の50%以上をオンラインで集客しました。



陶器市ならではの「掘り出し物」も!



出品数は75商品

陶器市を楽しみにしていた方や、普段はなかなか足を運ぶことができない遠方の方々が、自宅にいながらスマホやパソコンを通じて事業者の想いを感じ、地域の魅力を味わうイベントとなりました。

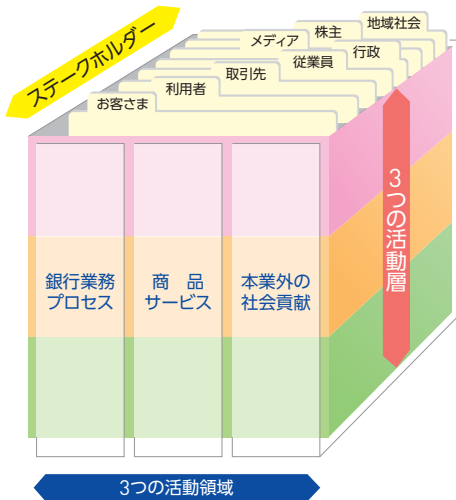
サイト名:地域共創型オンラインストア「エンニチ」
URL:<https://www.ennichi-japan.com/>

お問い合わせは、下記メールアドレスまで
ennichi-support@ibank.co.jp

CSRレポート 2020

Corporate Social Responsibility
Report 2020

当社グループでは、
経営理念の実践とも言えるべき
事業活動そのものが、
「CSR」であると考えています。



活動層 環境共生活動

1 地球に負の影響を及ぼす環境負荷の抑制・軽減に努め、環境保全に資する商品・サービスを提供します。

活動層 生涯学習支援

2 全ての人のライフサイクルに応じたさまざまなシーンで、金融知識の普及を通じた生涯学習を支援してまいります。

活動層 ユニバーサルアクション

3 店舗や商品・サービス、窓口での対応などさまざまな面において「みんなに優しい」アクションを展開します。

銀行業務プロセス によるCSR

コーポレートガバナンス、法令等遵守、各種リスク管理、情報開示といった企業経営の根幹となる体制構築・整備をはじめ、従業員の雇用や自らの環境負荷軽減活動などといった、銀行業務の全プロセスにかかる取り組み。

銀行の商品・サービス によるCSR

銀行の持つ金融機能を活用して、社会的に意義ある商品・サービスを開発・提供する取り組みおよび金融ビジネス。

本業外の社会貢献 によるCSR

本業とは直接的な関係は薄いですが、経営資源を活用して、社会的課題に関与する取り組み（ボランティア、文化芸術活動など含む）。



継続的なエコ・アクションによる2019年度下期のエネルギー削減量(2010年同期比)

Promotion of Environmental Harmony 環境共生活動 1

福岡銀行 南小倉支店

小倉北区清水町内で週末に実施されている一斉清掃活動に継続参加しています。店周の方々と声をかけ合いながらゴミを集めることで交流が深まり、「地域との共生」への意識を高めています。



十八銀行・親和銀行

十八・親和両行の長崎地区本部行員は、月に一度、十八銀行本店ビル周辺の清掃活動を行っています。出島和蘭商館跡(国指定史跡)など観光客も多く訪れる近隣エリアの保全活動に取り組むことで、地域に貢献しています。



親和銀行卸本町支店・十八銀行大塔支店は、佐世保卸団地で毎月1日に行われている地域清掃活動に合わせて、店周および店内の清掃を行っています。同じエリアに所属する両行行員が一体となって地域の美化活動に取り組んでいます。



ふくぎん少年少女テニス大会

110名 13回

小学生高学年

実施回数



Lifelong Learning Support

生涯学習支援



2

女声合唱フェスティバル

熊本銀行協賛による「女声合唱フェスティバル」を開催しました。第34回となる今回は、30団体・約600名が参加し、次世代に歌い継がれてほしい曲目が数多く発表され、美しい歌声がホールいっぱいに響き渡りました。



「NIUキッズキャンパス」での公開講座

親和銀行・十八銀行は、長崎国際大学で開催される「NIUキッズキャンパス」(小学生対象の公開講座)に継続参加しています。親和銀行は、小学1～3年生を対象とした講座を開催し、銀行やお金に関するクイズや体験イベントを約60名の子どもたち楽しんでいただきました。十八銀行では、保険会社と連携して、経営の基礎や保険の重要性を遊びながら学ぶゲームを実施しました。「優秀なパン屋となるための作戦を考える」というテーマのもと、小学校高学年を中心とした子どもたちが、店舗経営において起こり得るあらゆる出来事への対応策を考えました。



金融教室の開催

福岡銀行折尾支店は、折尾地区の職場体験イベントに参加しました。銀行業務に関する話やクイズ、札勘体験を通じて、銀行を身近に感じていただきました。行員と地域の方々が楽しく交流を深めながら地域貢献活動に取り組むことができました。



¥20
1食

TABLE FOR TWO

発展途上国の学校に給食を

2,858,750円

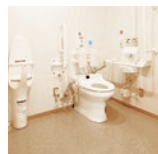
(2020年3月末時点)

グループ内4拠点の社員食堂でヘルシーメニューを注文すると、1食につき20円が発展途上国の学校給食費として寄付されます。

ユニバーサルアクション

Universal Action

♡ 3



多目的トイレの設置



comuoon



コミュニケーションボード



車椅子寄贈

ユニバーサル研修

熊本銀行では、お客さまに気持ちよくご利用いただける銀行を目指し、外部講師を招いて「高齢者とのコミュニケーション術」を学ぶ研修を開催しました。ケーススタディを通じて、ご高齢のお客さまと接する際の心構えや雰囲気作り、話し方などについて学びました。

熊本地震復興支援

熊本地震の復興支援を目的に、熊本銀行で取り扱う保険商品の販売件数に応じ、1件につき1,000円を寄付しています。2016年12月にスタートした本取り組みも全6回で終了となり、2019年下期は516万円を贈呈。寄付総額は2,489万円となりました。今後も、熊本のまちの成長・発展に向け、取り組んでまいります。



「みんなに優しい」銀行を目指して

FFGでは、障がいのある方や、ご高齢の方などに特定せず、誰もがもっと利用しやすい「みんなに優しい」銀行を目指しています。これまでに各種ユニバーサルツールを全店に配置し、バリアフリー対応に向けて体制を整えてまいりました。聴こえの改善に役立つ「comuoon (卓上型対話システム)」を一部店舗で設置し、高性能なマイク・スピーカーの活用によって快適な対面コミュニケーションをサポートしています。

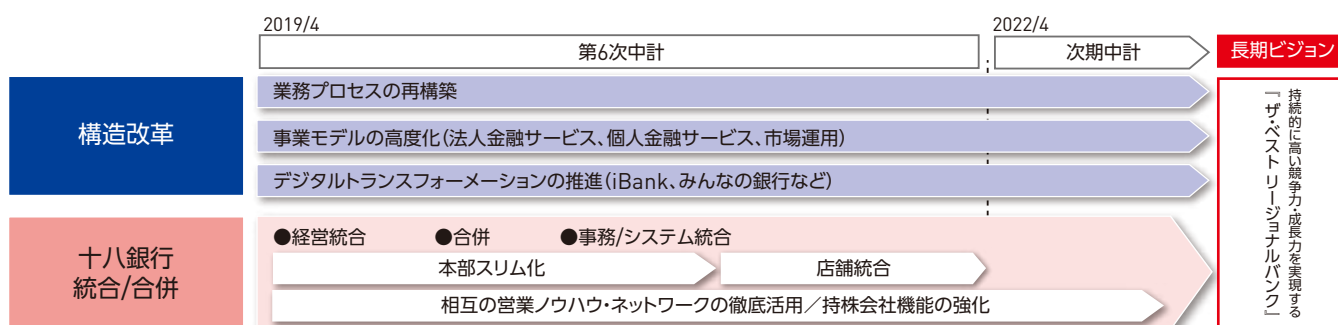
ふくおかフィナンシャルグループ 経営戦略

FFGが目指す姿

当社グループは、2007年4月の設立以降、福岡県、熊本県、長崎県を中心とした九州全域にネットワークを有する広域展開型地域金融グループを形成し、シングルプラットフォーム・マルチブランドの経営スタイルにより、地域経済の発展に資するさまざまな活動を展開しております。

一方で、地域金融機関を取り巻く経営環境は、人口減少・少子高齢化の進行、低金利環境の長期化といった構造的課題に加え、デジタル技術の急速な進展によって異業種からの新規参入が相次ぐなど、一層厳しさが増しております。

こうした環境下、当社グループでは、「構造改革」への取り組みで捻出した経営資源の成長分野への投入やデジタル技術の活用等により、事業モデルを高度化させていくとともに、事業領域の更なる拡大に向けた基盤の構築を進めてまいります。加えて、長崎における十八銀行との経営統合、親和銀行と十八銀行の合併を確実に遂行し、統合によるシナジー効果を早期に創出することで、長崎の経済活性化に貢献してまいります。この2つの戦略オプションの効果を融合させ、長期ビジョンとして掲げる「持続的に高い競争力・成長力を実現する『ザ・ベストリージョナルバンク』」を目指してまいります。



第6次中期経営計画 (2019年4月～2022年3月)

2019年4月からスタートした第6次中期経営計画では、基本方針「地域経済発展への貢献」と「FFG企業価値の向上」との好循環サイクルの実現に基づき、「業務プロセスの再構築」「事業モデルの高度化」「デジタルトランスフォーメーションの推進」による構造改革と、それを下支えする「人財力の最大化」「グループ総合力の強化」の5つの基本戦略を設定し、進化に向けたさまざまな取り組みを展開してまいります。

■ 基本方針



■ 基本戦略 (5本柱)

- I. 業務プロセスの再構築
- II. 事業モデルの高度化
- III. デジタルトランスフォーメーションの推進
- IV. 人財力の最大化
- V. グループ総合力の強化

■ 目標指標

	最終年度目標 (2021年度)
当期純利益(連結)※1	575億円
ROE	6%程度
自己資本比率	10%台半ば程度※2
OHR(連結)	60%程度

※1:親会社株主に帰属する当期純利益を指します。

※2:2020年5月見直し後

株主還元

当社グループでは、企業価値を高めることで株主価値の向上を図ることを基本とし、株主の皆さまに対する利益還元につきましては、業績連動型の配当方針(配当テーブル)を採用しております。第6次中期経営計画では、目標とする配当性向(連結)を35%程度とし、連結当期純利益の水準に応じて配当金をお支払いする方針です(但し、事業展開やリスク環境等により変更することがあります)。

■ 配当目安テーブル

当期純利益(連結) ※	年間配当金目安	配当性向
600億円以上	115円～	～37%
550億円以上～600億円未満	105円～	33～36%
500億円以上～550億円未満	95円～	33～36%
450億円以上～500億円未満	85円～	32～36%
400億円以上～450億円未満	75円～	32～36%
350億円以上～400億円未満	65円～	31～36%
300億円以上～350億円未満	55円～	30～35%
250億円以上～300億円未満	50円～	32～38%
200億円以上～250億円未満	45円～	34～43%
150億円以上～200億円未満	40円～	38～51%
150億円未満	35円～	45%～

※親会社株主に帰属する当期純利益を指します。

■ 1株あたり配当金

	2018年度	2019年度	2020年度予※
中間期	8.5円	42.5円	42.5円
期末	42.5円	42.5円	42.5円
年間	—	85円	85円

※2020年度は、十八銀行との経営統合による一過性の要因があるため、上記配当テーブルにかかわらず前年度配当額と同水準の年間85円をお支払いする予定です。

ふくおかフィナンシャルグループ 2019年度の業績ハイライト

損益状況

4行単体合算

(単位: 億円)

	2018年度	2019年度	前年比
業 務 粗 利 益	2,068	2,013	▲56
資 金 利 益	1,821	1,784	▲36
役 務 取 引 等 利 益	218	210	▲8
特 定 取 引 利 益	0	0	0
そ の 他 業 務 利 益	30	18	▲12
経費(除く臨時処理分)▲	1,219	1,231	12
業 務 純 益	855	182	▲673
コ ア 業 務 純 益	839	789	▲50
除く投資信託解約損益	838	786	▲52
信 用 コ ス ト ▲	51	614	563

FFG連結

経 常 利 益 ※	741	▲53	▲793
親会社株主に帰属する当期純利益 ※	516	1,106	590

コア業務純益【3期ぶり減益】

国内資金利益の減少を主因に、前年比▲50億円減少の789億円となりました。

連結経常利益【3期ぶり減益】

フォワードルッキングな引当の導入、新型コロナウイルス影響の予防的な引当、十八銀行経営統合に伴う引当基準統一等による信用コストの増加を主因として、前年比▲793億円減少の▲53億円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益【3期連続増益】

十八銀行との経営統合にかかる負ののれん発生益1,174億円等を計上した結果、前年比+590億円増加の1,106億円となりました。

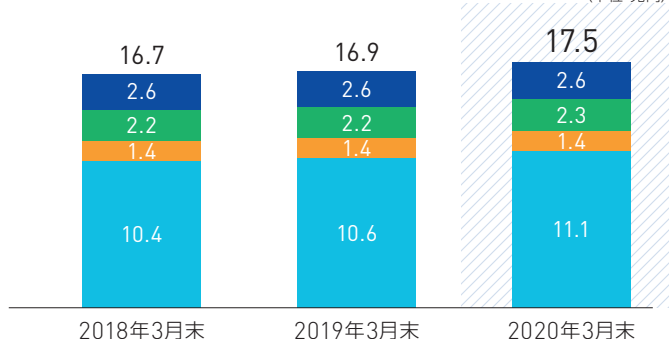
※当社は、2019年4月1日付で十八銀行と経営統合したため、2018年度におけるFFG連結の「経常利益」「親会社株主に帰属する当期純利益」には、十八銀行及びその連結子会社の計数を含んでおりません。

総資金(預金+NCD)の状況(4行単体合算)

総資金(預金+NCD)は、個人預金を中心に堅調に推移した結果、前年度末比6,067億円増加し、17兆5,979億円となりました。

総資金期末残高

■福岡銀行 ■熊本銀行 ■親和銀行 ■十八銀行
(単位: 兆円)

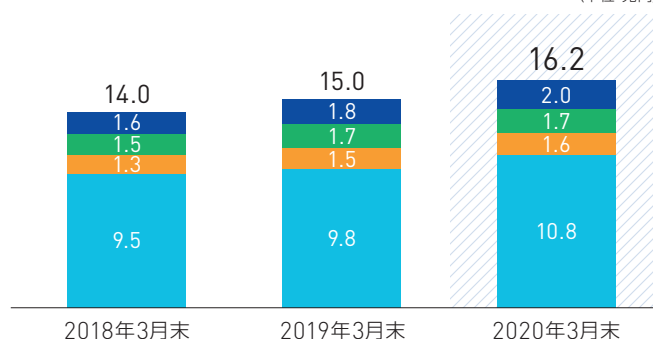


貸出金の状況(4行単体合算)

貸出金は、地元企業や個人のお客さまの資金ニーズに積極的に応えた結果、前年度末比1兆2,469億円増加し、16兆2,845億円となりました。

貸出金期末残高

■福岡銀行 ■熊本銀行 ■親和銀行 ■十八銀行
(単位: 兆円)

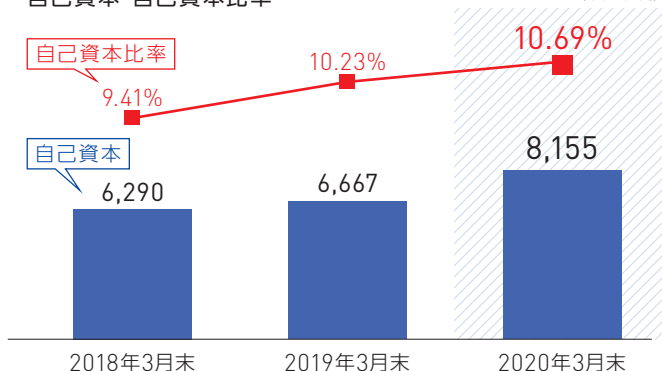


自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本は前年度末比1,488億円増加し、8,155億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.46%上昇し、10.69%となりました。

自己資本・自己資本比率

(単位: 億円)



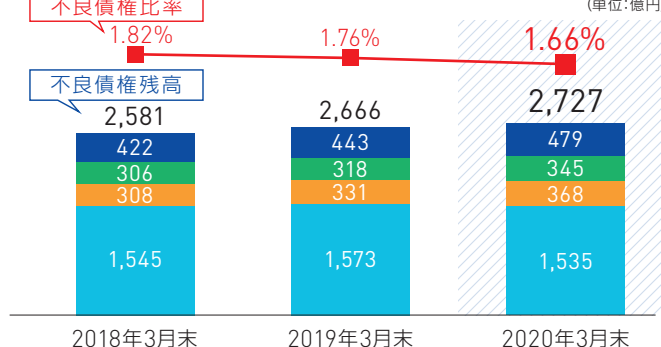
※信用リスク・アセットは、2019年3月末から先進的内部格付手法により算出しております。オペレーショナル・リスク相当額は、2019年9月末から基礎的手法により算出しております。
※十八銀行及びその連結子会社は2019年4月より連結対象のため、2018年3月末、2019年3月末の計数には含んでおりません。

不良債権の状況(4行単体合算)

不良債権残高は、前年度末比61億円増加し、2,727億円となりました。不良債権比率は同0.1%低下し、1.66%となりました。

不良債権残高・比率(部分直接償却後)

■福岡銀行 ■熊本銀行 ■親和銀行 ■十八銀行
(単位: 億円)



福岡銀行 2019年度の業績ハイライト

損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2018年度	2019年度	前年比
業 務 粗 利 益	1,329	1,313	▲16
資 金 利 益	1,147	1,135	▲12
国 内 部 門	1,070	1,053	▲17
国 際 部 門	77	82	5
役 務 取 引 等 利 益	153	161	8
特 定 取 引 利 益	0	0	0
そ の 他 業 務 利 益	29	17	▲12
経費(除く臨時処理分)▲	668	677	9
業 務 純 益	662	244	▲418
コ ア 業 務 純 益	650	642	▲8
除く投資信託解約損益	649	639	▲10
経 常 利 益	688	238	▲449
当 期 純 利 益	503	191	▲312
信 用 コ ス ト ▲	21	389	369

コア業務純益

資金利益の減少等により、前年比▲8億円減少の642億円となりました。

経常利益

フォワードルッキングな引当の導入、新型コロナウイルス影響の予防的な引当による信用コスト増加等により、前年比▲449億円減少の238億円となりました。

当期純利益

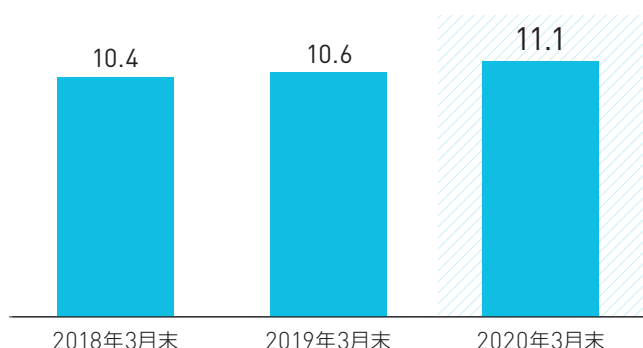
前年比▲312億円減少の191億円となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比4,855億円増加し、11兆1,430億円となりました。

総資金期末残高

(単位:兆円)

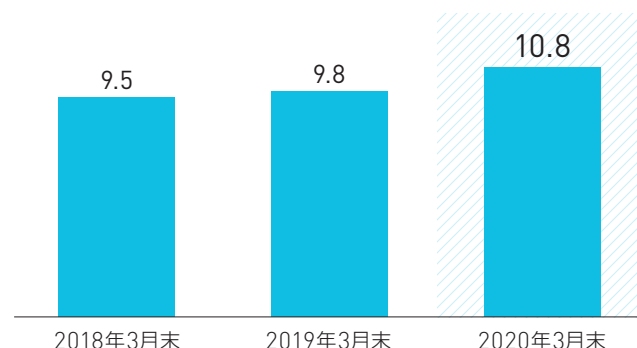


貸出金の状況

貸出金は、前年度末比9,191億円増加し、10兆8,169億円となりました。

貸出金期末残高

(単位:兆円)

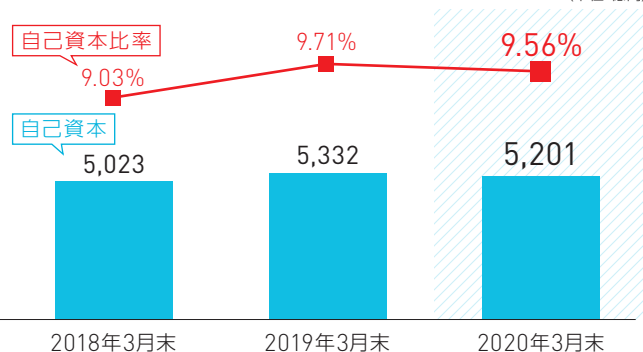


自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本は前年度末比131億円減少し、5,201億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.15%低下し、9.56%となりました。

自己資本・自己資本比率

(単位:億円)

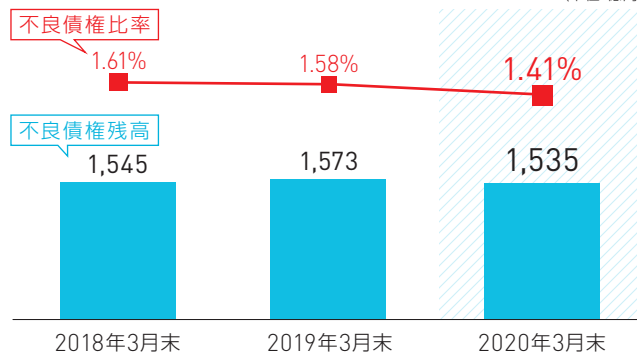


不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比39億円減少し、1,535億円となりました。不良債権比率は同0.17%低下し、1.41%となりました。

不良債権残高・比率(部分直接償却後)

(単位:億円)



※信用リスク・アセットは、2019年3月末から先進的内部格付手法により算出しております。

熊本銀行 2019年度の業績ハイライト

損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2018年度	2019年度	前年比
業 務 粗 利 益	194	187	▲7
資 金 利 益	179	178	▲1
国 内 部 門	179	178	▲1
国 際 部 門	1	0	▲0
役 務 取 引 等 利 益	14	8	▲6
そ の 他 業 務 利 益	1	1	0
経費(除く臨時処理分)▲	139	136	▲3
業 務 純 益	61	▲6	▲67
コ ア 業 務 純 益	55	51	▲4
除く投資信託解約損益	55	51	▲4
経 常 利 益	45	▲31	▲76
当 期 純 利 益	38	▲19	▲57
信 用 コ ス ト ▲	8	68	59

コア業務純益

役務取引等利益の減少等により、前年比▲4億円減少の51億円となりました。

経常利益

フォワードルッキングな引当の導入、新型コロナウイルス影響の予防的な引当による信用コスト増加等により、前年比▲76億円減少の▲31億円となりました。

当期純利益

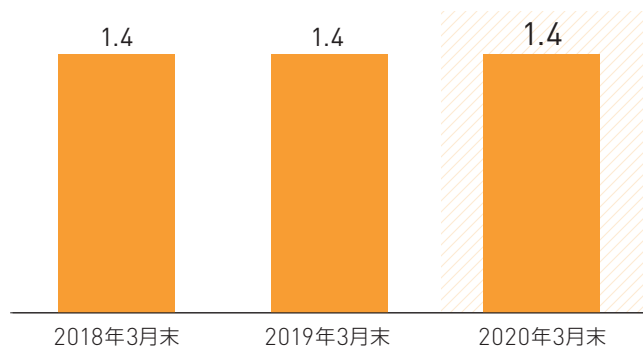
前年比▲57億円減少の▲19億円となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比195億円増加し、1兆4,390億円となりました。

総資金期末残高

(単位:兆円)

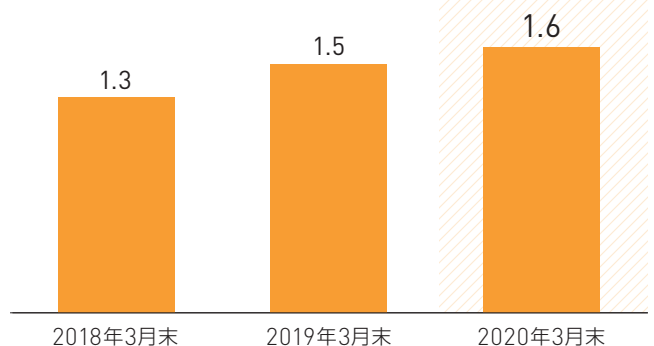


貸出金の状況

貸出金は、前年度末比817億円増加し、1兆6,161億円となりました。

貸出金期末残高

(単位:兆円)

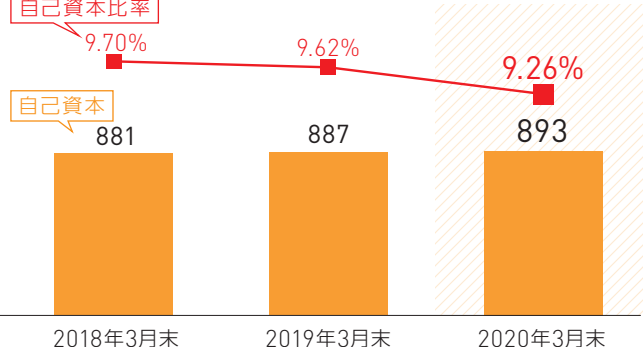


自己資本比率の状況

自己資本は前年度末比6億円増加し、893億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.36%低下し、9.26%となりました。

自己資本・自己資本比率

(単位:億円)

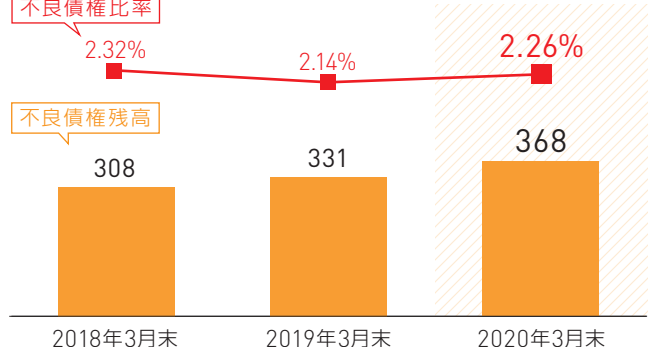


不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比37億円増加し、368億円となりました。不良債権比率は同0.12%上昇し、2.26%となりました。

不良債権残高・比率(部分直接償却後)

(単位:億円)



親和銀行 2019年度の業績ハイライト

損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2018年度	2019年度	前年比
業 務 粗 利 益	264	244	▲20
資 金 利 益	235	220	▲15
国 内 部 門	234	219	▲15
国 際 部 門	1	1	▲0
役 務 取 引 等 利 益	27	21	▲5
そ の 他 業 務 利 益	2	2	0
経費(除く臨時処理分)▲	197	199	2
業 務 純 益	63	7	▲56
コ ア 業 務 純 益	67	45	▲22
除く投資信託解約損益	67	45	▲22
経 常 利 益	60	▲20	▲80
当 期 純 利 益	41	▲38	▲79
信 用 コ ス ト ▲	9	41	32

コア業務純益

資金利益及び役務取引等利益の減少等により、前年比▲22億円減少の45億円となりました。

経常利益

フォワードルッキングな引当の導入、新型コロナウイルス影響の予防的な引当による信用コスト増加等により、前年比▲80億円減少の▲20億円となりました。

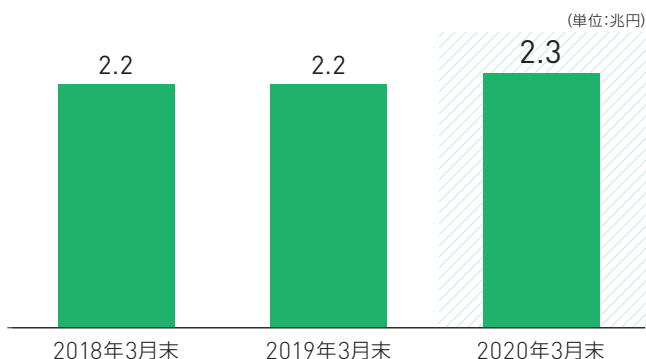
当期純利益

十八銀行との店舗統合にかかる固定資産減損損失等を計上した結果、前年比▲79億円減少の▲38億円となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比350億円増加し、2兆3,169億円となりました。

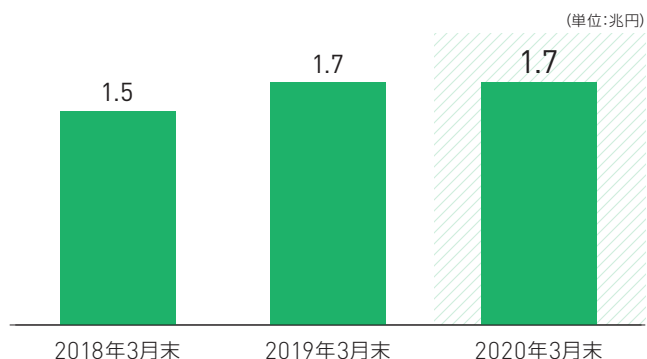
総資金期末残高



貸出金の状況

貸出金は、前年度末比777億円増加し、1兆7,978億円となりました。

貸出金期末残高

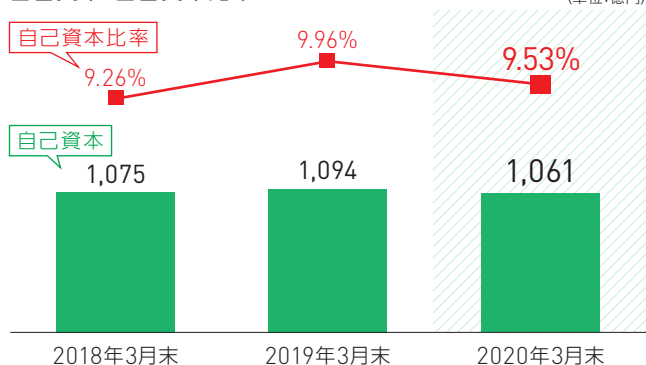


自己資本比率の状況

自己資本は前年度末比33億円減少し、1,061億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.43%低下し、9.53%となりました。

自己資本・自己資本比率

(単位:億円)

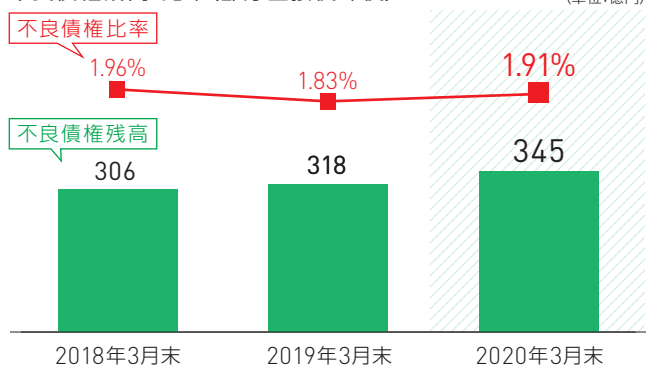


不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比27億円増加し、345億円となりました。不良債権比率は同0.08%上昇し、1.91%となりました。

不良債権残高・比率(部分直接償却後)

(単位:億円)



十八銀行 2019年度の業績ハイライト

損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	2018年度	2019年度	前年比
業 務 粗 利 益	282	269	▲13
資 金 利 益	259	251	▲8
国 内 部 門	248	239	▲9
国 際 部 門	11	12	0
役 務 取 引 等 利 益	24	19	▲5
そ の 他 業 務 利 益	▲2	▲2	0
経費(除く臨時処理分)▲	215	219	4
業 務 純 益	68	▲63	▲132
コ ア 業 務 純 益	67	50	▲17
除く投資信託解約損益	67	50	▲17
経 常 利 益	67	▲103	▲170
当 期 純 利 益	41	▲106	▲148
信 用 コ ス ト ▲	13	116	103

コア業務純益

資金利益及び役務取引等利益の減少等により、前年比▲17億円減少の50億円となりました。

経常利益

フォワードルッキングな引当の導入、新型コロナウイルス影響の予防的な引当、経営統合に伴う引当基準統一等による信用コスト増加等により、前年比▲170億円減少の▲103億円となりました。

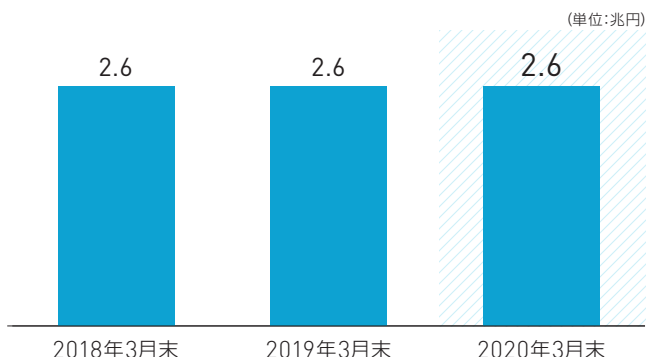
当期純利益

親和銀行との店舗統合にかかる固定資産減損損失等を計上した結果、前年比▲148億円減少の▲106億円となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

総資金(預金+NCD)は、前年度末比666億円増加し、2兆6,988億円となりました。

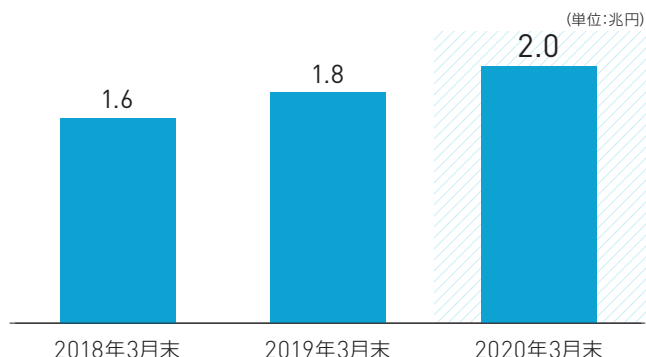
総資金期末残高



貸出金の状況

貸出金は、前年度末比1,683億円増加し、2兆535億円となりました。

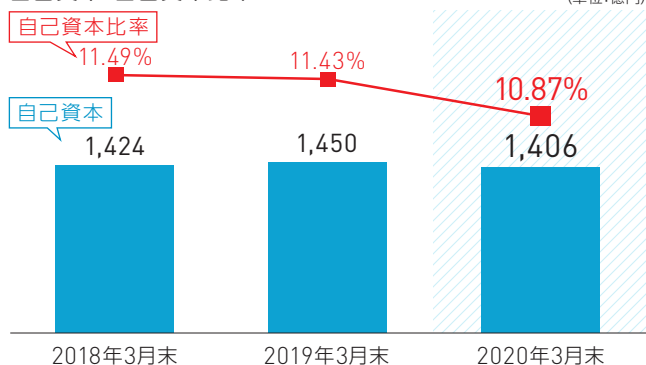
貸出金期末残高



自己資本比率の状況(連結ベース)

自己資本は前年度末比44億円減少し、1,406億円となりました。自己資本比率[バーゼルⅢ(国内基準)]は、同0.56%低下し、10.87%となりました。

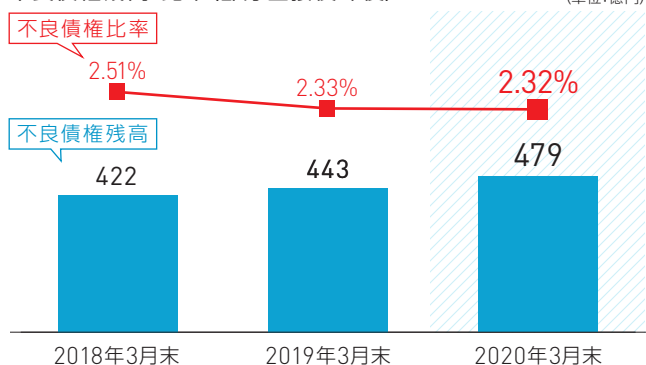
自己資本・自己資本比率



不良債権の状況

不良債権残高は、前年度末比36億円増加し、479億円となりました。不良債権比率は同0.01%低下し、2.32%となりました。

不良債権残高・比率(部分直接償却後)





商号等	株式会社福岡銀行(登録金融機関) 福岡財務支局長(登金)第7号	株式会社熊本銀行(登録金融機関) 九州財務局長(登金)第6号	株式会社親和銀行(登録金融機関) 福岡財務支局長(登金)第3号	株式会社十八銀行(登録金融機関) 福岡財務支局長(登金)第2号	FFG証券株式会社(金融商品取引業者) 福岡財務支局長(金商)第5号
加入協会	日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会	日本証券業協会	日本証券業協会	日本証券業協会	日本証券業協会 第二種金融商品取引業協会